

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 11 日現在

機関番号：12601

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2010～2011

課題番号：22656097

研究課題名（和文）国際建設プロジェクトにおける契約文化の計測と評価

研究課題名（英文）Measurement and Evaluation of Contractual Culture in International Construction Projects

研究代表者

小澤 一雅（OZAWA KAZUMASA）

東京大学・大学院工学系研究科・教授

研究者番号：80194546

研究成果の概要（和文）：

国際プロジェクトマネジャー育成のためのマネジメント教育プログラムの開発を目標とし、契約文化の計測と評価の手法の構築を試みた。国際プロジェクトにおける契約マネジメント上の課題を抽出し、その観点から海外で用いられる契約図書および各国の契約制度の比較分析を通して、契約システムを特徴づける要素として、環境・構造・文化を特定した。さらに、それぞれの測定対象として、法体系・契約約款・現場の運用実態を取り上げ、その特徴を評価する手法を開発した。

研究成果の概要（英文）：

This research aims to develop the training program for international project managers. Contractual problems in international projects were identified, and a comparative analysis was carried out on contractual documents and institutions in some countries. Environment, structure and culture were specified as viewpoints for contractual system. Furthermore assessment method for them was developed utilizing the legislative system, general conditions and operation of contract.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010 年度	1,600,000	0	1,600,000
2011 年度	1,600,000	480,000	2,080,000
年度			
年度			
年度			
総計	3,200,000	480,000	3,680,000

研究分野：工学

科研費の分科・細目：土木工学、土木材料・施工・建設マネジメント

キーワード：国際建設プロジェクト・契約文化・マネジメント・比較分析・教育プログラム

1. 研究開始当初の背景

研究代表者は、ケースメソッドの手法を活用したマネジメント教育プログラムの開発に着手してきており、経験豊富なプロジェク

トマネジャーの経験に基づき映像教材を作成し、そのプロトタイプの開発を行っている。この研究成果より、再現映像を用いて経験者からノウハウ（経験知）を引き出すことの有

効性と、ケースを作成しこれを使って必要な知を伝達することの難しさ、さらに現場に必要な実践力の向上を計測することの重要性が確認された。

しかし、この方法だけで暗黙知を暗黙知として伝達する手法には、教育プログラムとして普及するには限界がある。そこで、この暗黙知を形式知化する手法を組み合わせる必要があると考えるに至った。これまでの研究を実施するプロセスを通して、国際プロジェクトの日本人マネジャーが遭遇する課題として契約文化の違いから発生する問題が多数確認された。長年この問題が解決していないのは、これまでの経験知（暗黙知）が上手く伝達されていないことにもよるものと思われる。そこで、国際建設プロジェクトにおける契約文化を計測し、評価する手法を開発することにより、問題解決を図ろうと考えた次第である。

2. 研究の目的

本研究の目標は、国際プロジェクトマネジャー育成のためのマネジメント教育プログラムの開発にある。従来から、優れたマネジャーを育成するためには、知識と経験が必要といわれてきた。必要な形式知に関する知識体系の整理については、これまで数多くの研究が実施されてきており、その成果が種々の教科書や実用書に示されてきている。経験で身につける内容と教育の方法論については、「OJT」の重要性が指摘されているものの十分な研究が進められていない。特に、わが国では、現場での経験を通して得られる知識の多くが暗黙知であると言われており、国際競争力のある優れた若手マネジャーを早期に育成することが困難な状況にある。そこで本研究では、国際建設プロジェクトにおいて、日本人が不得意と言われる契約マネジメントを対象に、将来のマネジメント教育プログラムに活かすことを想定し、契約文化の計測と評価の手法を開発することを目的とする。

3. 研究の方法

【2010年度】

- (1) 国際プロジェクトにおける契約マネジメント上の課題の分析
- (2) 国内外の契約制度の比較分析
- (3) 国内外の契約文化の比較分析

【2011年度】

- (1) 契約文化の評価フレームワークの構築
- (2) 海外建設現場の実態調査に基づく検証
- (3) 契約文化の計測および評価手法の構築
- (4) 契約文化の形式知化とマネジメント教育プログラムへの導入

4. 研究成果

本研究の目標は、国際プロジェクトマネジャー育成のためのマネジメント教育プログラムの開発にある。本研究では、国際建設プロジェクトにおいて、日本人が不得意と言われる契約マネジメントを対象に、将来のマネジメント教育プログラムに活かすことを想定し、契約文化の計測と評価の手法を開発することを目的とし、以下を実施した。

(1) 国際プロジェクトにおける契約マネジメント上の課題の分析

国際プロジェクトの経験豊富な所長（プロジェクトマネジャー）を対象に、インタビュー調査を実施するとともに、海外の建設現場を訪問し、国際プロジェクトの契約マネジメント上の課題を抽出した。

(2) 国内外の契約制度と契約文化の比較分析

ベトナム、フィリピンで実施された公共工事プロジェクト（ODA事業）で用いられた契約図書（一般条件書と特記条件書）を国内の標準契約約款と比較分析した。さらに、ベトナムおよびフィリピンの国内の公共工事で用いられる標準契約約款を含めて、言語学およびテキストマイニングの手法を用いた比較分析を合わせて実施した。さらに、選定された工事における契約文化を契約書の特記条件書および関係者へのインタビューに基づく契約の運用の実態から明らかにし、各国の比較分析を試みた。

(3) 契約文化の評価フレームワークと計測および評価手法の構築

契約文化の評価フレームワークを構築するために個々のプロジェクトを取り巻く環境としてのフィールドを設定した。個々のプロジェクト関係者が保有している契約文化がどの

ように形成されたかを類推するため、歴史的に契約がどのように変化したかを調査した。外資系企業の契約文化を探るため、その母国での契約方法やその運用に関する調査をあわせて実施した。

これまでに得られた成果に基づき、契約文化の計測および評価手法を構築した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 2 件)

- ① 松葉保孝、小澤一雅、安谷 覚、フィリピン及びベトナムにおける円借款事業の契約条件の運用実態調査、土木学会論文集 F 4 特集号、査読有、ol. 67 No. 4、2011、263-272、
- ② Petr Matous, Kazumasa Ozawa、Measuring Social Capital in a Philippine Slum、Field Methods、査読有、Vol. 22 No. 2、2010、133-153、

[学会発表] (計 3 件)

- ① 小澤一雅、公共調達制度の見直しと建設業の国際展開、(財)建設経済研究所 講演会、2012/2/20、浜離宮建設プラザ、
- ② 小澤一雅、Experience and Challenge of Public Works Procurement System Reform in Japan、JOINT SEMINAR、2011/11/23、Jakarta (インドネシア)、
- ③ Kazumasa OZAWA、State of the Public Procurement System for Construction Projects in Japan、韓国土木学会全国大会、2010/10/21、韓国 (仁川)、

[図書] (計 0 件)

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小澤 一雅 (OZAWA KAZUMASA)
東京大学・大学院工学系研究科・教授
研究者番号：80194546

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

